

4 県内バス交通ネットワークの再編とバス利用を促す取り組み

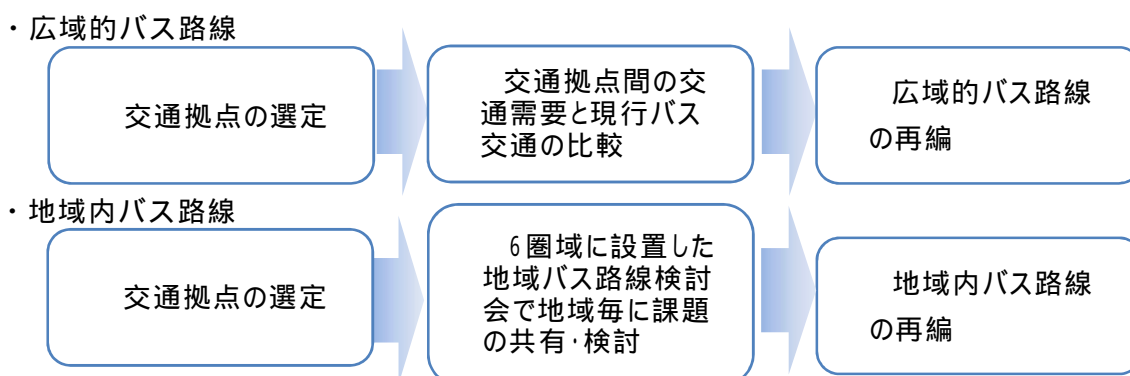
(1) 再編の具体的な考え方

県民や観光客は何らかの交通手段を利用して移動するため、人々の移動を集約すると目的地までの間に何らかのネットワークが形成されます。

ネットワークは、移動の目的地や交通機関を乗り継ぐ結節点となる拠点と経路（バス路線）から構成されますが、やみくもに経路（バス路線）を設定しても利便性の高いネットワークにはなりません。

バス交通についても、複数の観光客や県民の市町村を跨いだ移動を行うための広域的路線と市町村内で完結し地域住民の移動の足となる地域内路線とでは、役割が異なります。

そこで、この計画においては、バス路線を広域的バス路線と地域内バス路線に分け、それぞれの役割・特性に応じて、次の通り再編を検討します。



(2) 交通拠点の設定

交通拠点選定の基本的な考え方

交通機関の交通結節点となる鉄道駅や商業施設、病院、学校などの移動の目的地となる施設等を交通拠点として選定することとし、具体的に次の点に着目し交通拠点の選定を行います。

- ・ 県外とのゲートウェイ（県外からの来訪客が交通機関から下りて始めて山梨県内に足を踏み入れる場所）、交通の結節点（主要鉄道駅）、移動の目的地（県民のくらしや観光客の移動の目的地）となる地点を抽出します。
- ・ 県民のくらしや観光客の移動の目的地を次の視点から選定します。

() 県民が生涯にわたり安心して暮らせる社会の実現に向け必要な都市機能の集積地

子育て...地域子育て支援施設、図書館

教育...大学・短期大学・高等学校

しごと...従業員1,000人以上の地域

医療...病院

買い物...床面積10,000㎡以上の大規模集客施設

() 観光客の円滑な移動の確保に向け観光入込客数の多い地域

交通拠点（全 28 拠点）の選定結果

前項 の考え方に基づいて交通拠点を選定した結果は以下のとおりであり、全部で 28 拠点となりました。〔拠点選定の詳細は参考資料 1 〕

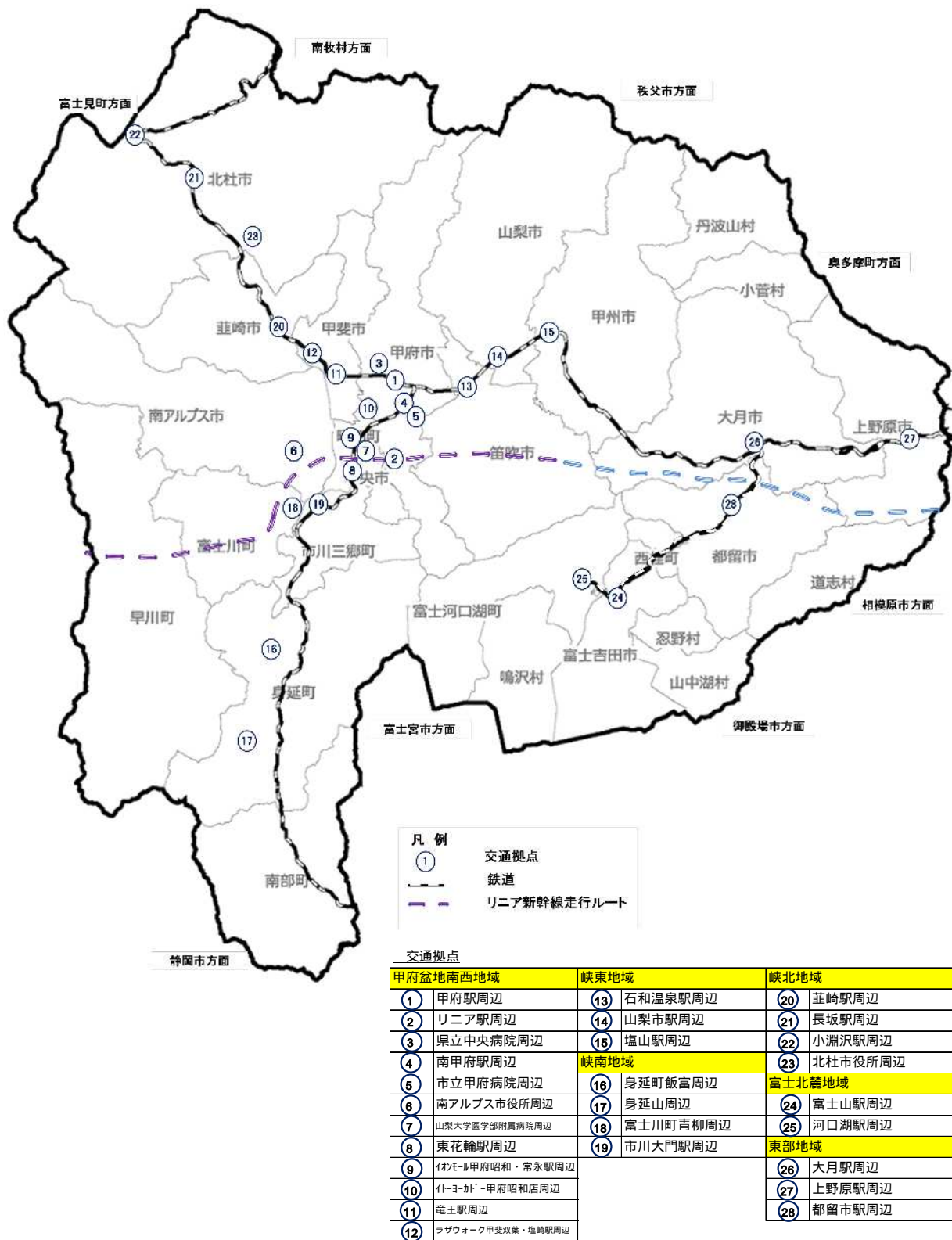


図 4 - 1 交通拠点の状況

(3) 広域的バス路線

交通拠点間交通需要の把握

広域的バス路線の検討をするに当たり、交通拠点間を含む市町村間の交通需要を把握するため、平成 22 年の国勢調査及び道路交通センサスを基に、通勤・通学・買い物・通院の 4 つの目的に関する移動の状況について把握しました。

市町村間を跨ぐ移動については、次の市町村間の移動が多い状況となっています。[詳細は参考資料 2]

市町村間移動が 10,000 トリップ以上		
・ 甲府市 - 甲斐市	・ 甲府市 - 笛吹市	
市町村間移動が 5,000 トリップ～10,000 トリップ		
・ 甲府市 - 南アルプス市	・ 甲府市 - 中央市	・ 甲府市 - 昭和町
市町村間移動が 1,000 トリップ～5,000 トリップ		
・ 甲府市 - 山梨市	・ 甲府市 - 韮崎市	・ 甲府市 - 北杜市
・ 甲府市 - 甲州市	・ 甲府市 - 市川三郷町	・ 甲府市 - 富士川町
・ 富士吉田市 - 都留市	・ 富士吉田市 - 忍野村	・ 富士吉田市 - 山中湖村
・ 富士吉田市 - 富士河口湖町	・ 都留市 - 大月市	・ 山梨市 - 笛吹市
・ 山梨市 - 甲州市	・ 大月市 - 上野原市	・ 韮崎市 - 南アルプス市
・ 韮崎市 - 北杜市	・ 韮崎市 - 甲斐市	・ 南アルプス市 - 甲斐市
・ 南アルプス市 - 中央市	・ 南アルプス市 - 市川三郷町	・ 南アルプス市 - 富士川町
・ 南アルプス市 - 昭和町	・ 北杜市 - 甲斐市	・ 甲斐市 - 中央市
・ 甲斐市 - 昭和町	・ 笛吹市 - 甲州市	・ 中央市 - 昭和町
市町村間移動が 500 トリップ～1,000 トリップ		
・ 甲府市 - 富士吉田市	・ 甲府市 - 大月市	・ 甲府市 - 身延町
・ 富士吉田市 - 西桂町	・ 富士吉田市 - 鳴沢村	・ 都留市 - 西桂町
・ 都留市 - 富士河口湖町	・ 南アルプス市 - 笛吹市	・ 南アルプス市 - 北杜市
・ 甲斐市 - 笛吹市	・ 笛吹市 - 中央市	・ 笛吹市 - 昭和町
・ 中央市 - 市川三郷町	・ 中央市 - 富士川町	・ 市川三郷町 - 身延町
・ 市川三郷町 - 富士川町	・ 身延町 - 南部町	・ 富士河口湖町 - 忍野村
・ 鳴沢村 - 富士河口湖町		

表 4 - 1 市町村間の交通需要の状況

通勤・通学・買い物・通院を目的として起点から終点到 1 回移動したものを 1 トリップとしてカウントしています。

市町村間の発地 - 着地別のトリップ数のうちより大きな数値で分類しています。

交通拠点間公共交通の把握

次に、交通拠点を有する市町村間を直結する公共交通の状況について把握しました。市町村を跨ぐ公共交通で、鉄道・バスの両方があるもの、バスのみあるものの状況は次の通りとなっています。[詳細は参考資料3]

鉄道・バスの両方		
・ 甲府市 - 韮崎市	・ 甲府市 - 甲斐市	・ 甲府市 - 笛吹市
・ 甲府市 中央市	・ 甲府市 - 富士川町	・ 甲府市 - 昭和町
・ 富士吉田市 - 富士河口湖町	・ 都留市 - 大月市	・ 山梨市 - 甲州市
・ 韮崎市 - 北杜市	・ 韮崎市 - 甲斐市	・ 笛吹市 - 甲斐市
・ 中央市 - 富士川町	・ 中央市 - 昭和町	・ 市川三郷町 - 富士川町
・ 身延町 - 南部町	・ 富士川町 - 昭和町	
バスのみ		
・ 甲府市 - 富士吉田市	・ 甲府市 - 南アルプス市	・ 甲府市 - 忍野村
・ 甲府市 - 富士河口湖町	・ 富士吉田市 - 笛吹市	・ 富士吉田市 - 身延町
・ 富士吉田市 道志村	・ 富士吉田市 - 忍野村	・ 富士吉田市 - 山中湖村
・ 富士吉田市 - 鳴沢村	・ 都留市 - 上野原市	・ 都留市 - 道志村
・ 韮崎市 - 南アルプス市	・ 南アルプス市 - 甲斐市	・ 南アルプス市 - 中央市
・ 南アルプス市 - 富士川町	・ 南アルプス市 - 昭和町	・ 甲斐市 - 中央市
・ 甲斐市 - 富士川町	・ 甲斐市 - 昭和町	・ 笛吹市 - 忍野村
・ 笛吹市 - 富士河口湖町	・ 身延町 - 鳴沢村	・ 身延町 - 富士河口湖町
・ 道志村 - 山中湖村	・ 忍野村 - 山中湖村	・ 忍野村 - 富士河口湖町
・ 山中湖村 - 富士河口湖町		

表 4 - 2 市町村間の公共交通の状況

交通需要と公共交通の比較による検討対象路線の抽出

市町村間の「交通需要」と「公共交通」について、バスだけの市町村間移動、及び鉄道もバスも無い市町村間移動について、両者の状況を図示しました（電車直通がある市町村間移動は除外しています）。そして、次の路線について、再編検討対象路線として抽出しました。

- ・ 交通需要に対してバス運行が少ない路線について、地域ニーズを踏まえ再編検討する広域的バス路線として抽出（A）
- ・ 一定の交通需要があるが公共交通がない路線について、鉄道との連携も視野に再編検討するバス路線として抽出（B）
- ・ 上記2路線とは別に、重要な広域交通の幹線として別途検討する広域的バス路線として抽出（C）

500トリップ以上で山梨県の市町村間移動（通勤、通学、買物、通院等私事の合計値）総量の85%を占めることから（500トリップ未満は全体の15%）ここでは500トリップを交通需要の多寡の基準としています。

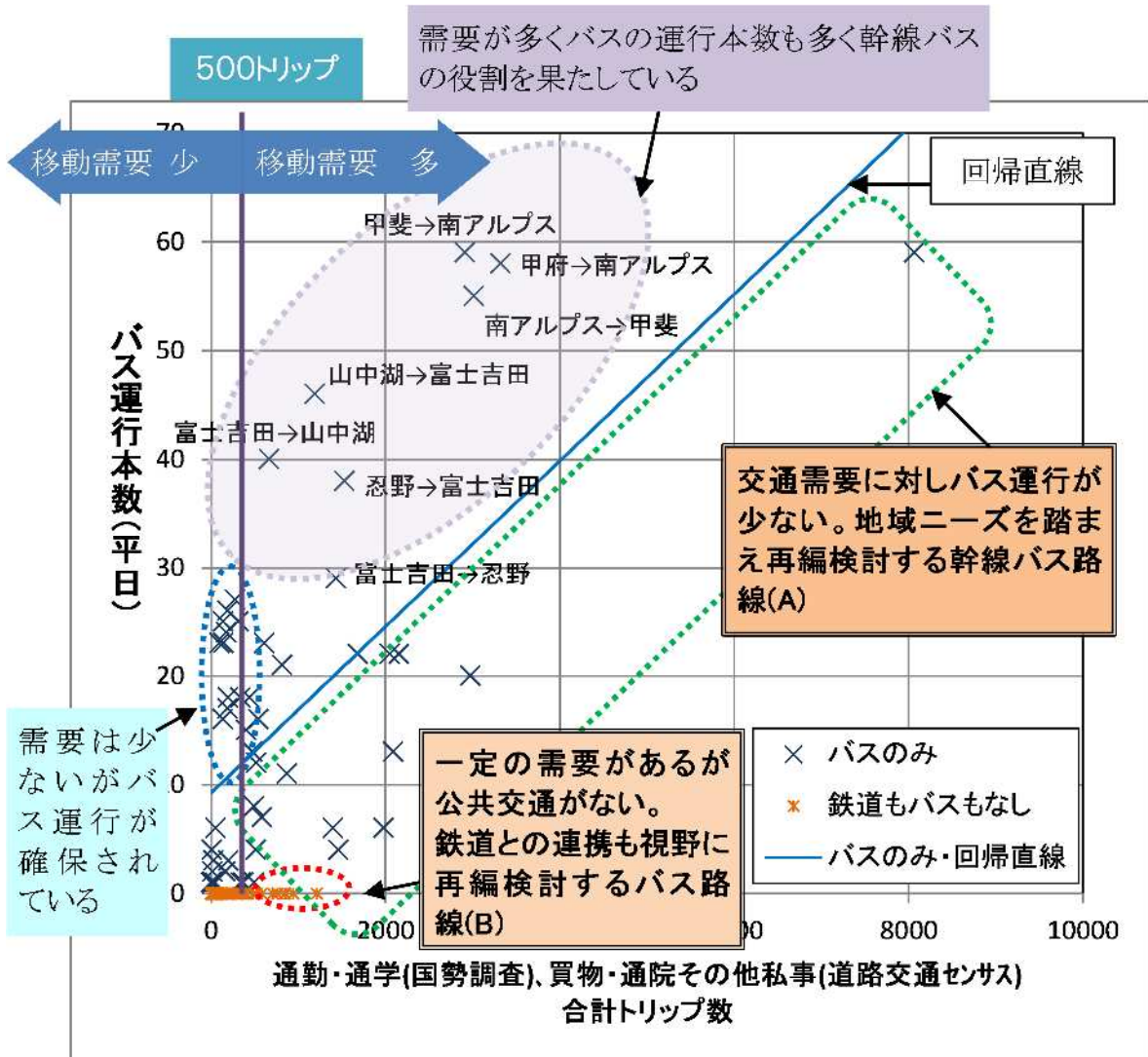


図4-2 市町村間の交通需要と公共交通運行本数の関係

公共交通 交通需要	鉄道路線 有	鉄道路線 無		
		バス直通運行 多 (回帰曲線以上)	バス直通運行 少 (回帰曲線未満)	バス直通運行 無
交通需要 多 (500トリップ 以上)	検討 対象外 <鉄道 対応>	原則現行体制で 対応	<u>地域ニーズを踏まえ再編検討する広域的バス路線(A)</u>	<u>鉄道との連携も視野に再編検討する路線(B)</u>
交通需要 少 (500トリップ 未満)		検討対象外 <現行体制で対応> <u>重要な広域的バス路線についてサービスの維持検討(C)</u>	検討対象外	

表 4 - 3 交通需要・公共交通提供の状況による見直しの方向

(A)地域ニーズを踏まえ再編検討する広域的バス路線(交通需要が多い(500 トリップ以上)・バス直通運行が少ない(回帰直線以下))

- ・南アルプス市 - 甲府市
- ・甲斐市 昭和町
- ・富士河口湖町 - 鳴沢村
- ・忍野村 - 富士河口湖町
- ・富士川町 - 南アルプス市
- ・南アルプス市 - 昭和町
- ・南アルプス市 - 韮崎市
- ・甲斐市 - 中央市
- ・富士吉田市 - 鳴沢村
- ・南アルプス市 - 中央市

(B) 鉄道との連携も視野に再編検討するバス路線 (交通需要が多い(500 トリップ以上)・バス直通運行が無い(X 軸上の点))

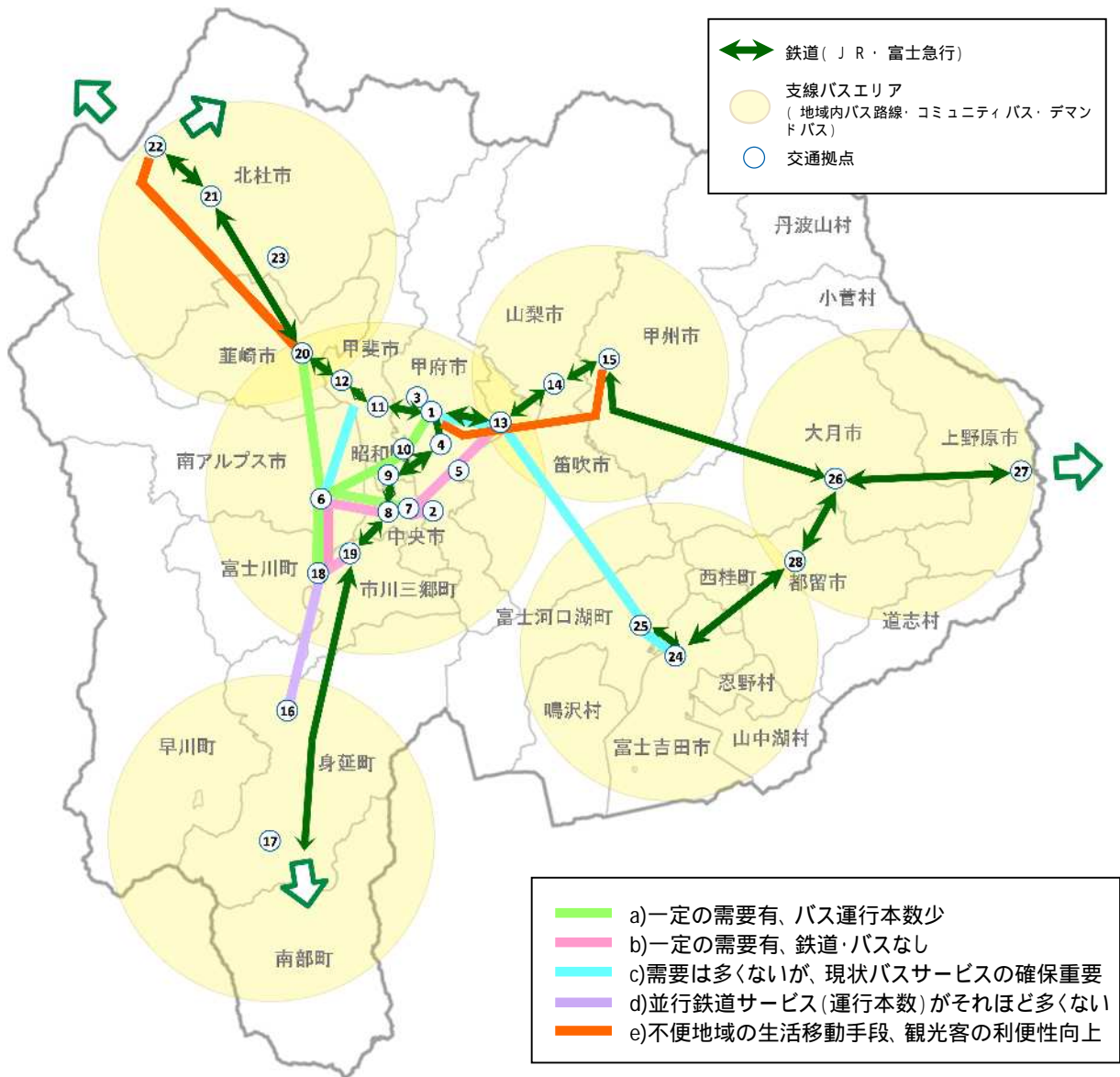
- ・南アルプス市 - 北杜市
- ・南アルプス市 - 中央市
- ・南アルプス市 - 笛吹市
- ・南アルプス市 - 市川三郷町
- ・南アルプス市 - 昭和町

(C) 重要な広域的バス路線としてサービスの維持を検討する必要があるバス路線

- ・甲府市 - 富士吉田市

県内の交通ネットワークにおける広域的バス路線再編候補

交通拠点からの移動の需要や交通機関の提供状況等から抽出される、広域的な移動を可能とする広域ネットワークの再編案は次のとおりになると考えられます。



甲府盆地南西地域	① 甲府駅周辺	② リニア駅周辺	③ 県立中央病院周辺	④ 南甲府駅周辺
	⑤ 市立甲府病院周辺	⑥ 南アルプス市役所周辺	⑦ 山梨大学医学部付属病院周辺	⑧ 東花輪駅周辺
	⑨ イオンモール甲府昭和・常永駅周辺	⑩ イトヨーカドー甲府昭和店周辺	⑪ 竜王駅周辺	⑫ ラザウォーク甲斐双葉・塩崎駅周辺
峡東地域	⑬ 石和温泉駅周辺	⑭ 山梨市駅周辺	⑮ 塩山駅周辺	
峡南地域	⑯ 身延町飯富周辺	⑰ 身延山周辺	⑱ 富士川町青柳周辺	⑲ 市川大門駅周辺
峡北地域	⑳ 韮崎駅周辺	㉑ 長坂駅周辺	㉒ 小淵沢駅周辺	㉓ 北杜市役所周辺
富士北麓地域	㉔ 富士山駅周辺	㉕ 河口湖駅周辺		
東部地域	㉖ 大月駅周辺	㉗ 上野原駅周辺	㉘ 都留市駅周辺	

図 4 - 3 山梨県交通ネットワーク再編案

この再編案を基に、専門家の意見やバス事業者・市町村の意向を踏まえ、次の通り県内の広域的バス路線に関するバス交通ネットワークの再編を行います。

()交通空白地域の解消

通勤・通学・通院における広域的な移動手段の確保を図るため、鉄道を利用して移動ができない複数の交通拠点間について鉄道駅や病院、学校を經由して結ぶ路線を新設します。

- ・ 石和温泉駅～市立甲府病院～山梨大学医学部附属病院～東花輪駅～フォレストモール富士川
- ・ 塩山駅～甲州市勝沼～石和温泉駅～甲府市東部

()既存広域的バス路線の利便性向上

増便による通勤・通学、買い物等を目的とした移動の円滑化

夕方から夜間にかけて運行する便がなかったり、少なかったりするために、通勤、通学からの帰宅時の利便性が低い路線については、沿線住民の利便性を考慮した時間帯の増便をします。

- ・ 甲府駅～甲府市後屋団地～山梨大学医学部附属病院
- ・ 中央病院～甲府駅～甲府市西部住宅街～西野～南アルプス市役所
- ・ 甲府駅～甲府市、昭和町住宅街～イオンモール甲府昭和～山梨大学医学部附属病院

移動の目的地となる商業施設等への起終点や経路の見直し

移動の目的地となる大規模商業施設を經由することや、それらの施設を起終点とすることで、買い物の利便性が向上するだけでなく、そこからバス交通を利用することにより、通勤や通学などを目的とした移動の利便性が向上するバス路線に再編します。

- ・ 甲府駅～十五所～南アルプス市甲西支所線のフォレストモール富士川延伸

(4) 地域内バス路線

地域バス路線検討会の設置・検討

地域のバス交通は、地域住民の日常生活を支える移動手段として重要な役割を担っています。

バス交通ネットワーク再生計画の策定に当たり、関係市町村や国、県、バス事業者などで構成する地域バス路線検討会を県内6圏域に設置し、広域的バス路線と併せたバス交通の利便性の向上を目指して、通勤・通学、通院、買い物などの住民の移動ニーズや地域内の観光地を巡る観光客のニーズに応える地域内のバス路線の再編等を検討してきました。

地域バス路線検討会では、市町村合併後の公共施設の再編状況などを踏まえたバス路線の見直しや、市町村の区域を越えた通勤・通学や通院のためのバス交通の確保など、様々な課題が示されておりま。

このため、高齢者などの交通弱者や子育て世代など、地域住民の日常生活における利用目的に応じて、病院や学校、商業施設などをきめ細かく巡る路線への再編や、短時間で移動するための経路の見直しなどの検討を進めました。

また、鉄道や他のバス路線との乗り継ぎにより、通学や通院などの広域的な移動が確保できるよう、鉄道駅などと接続するバス路線の延伸についても検討しました。

県内6圏域において、次の通り地域内バス路線の新設・再編を行います。

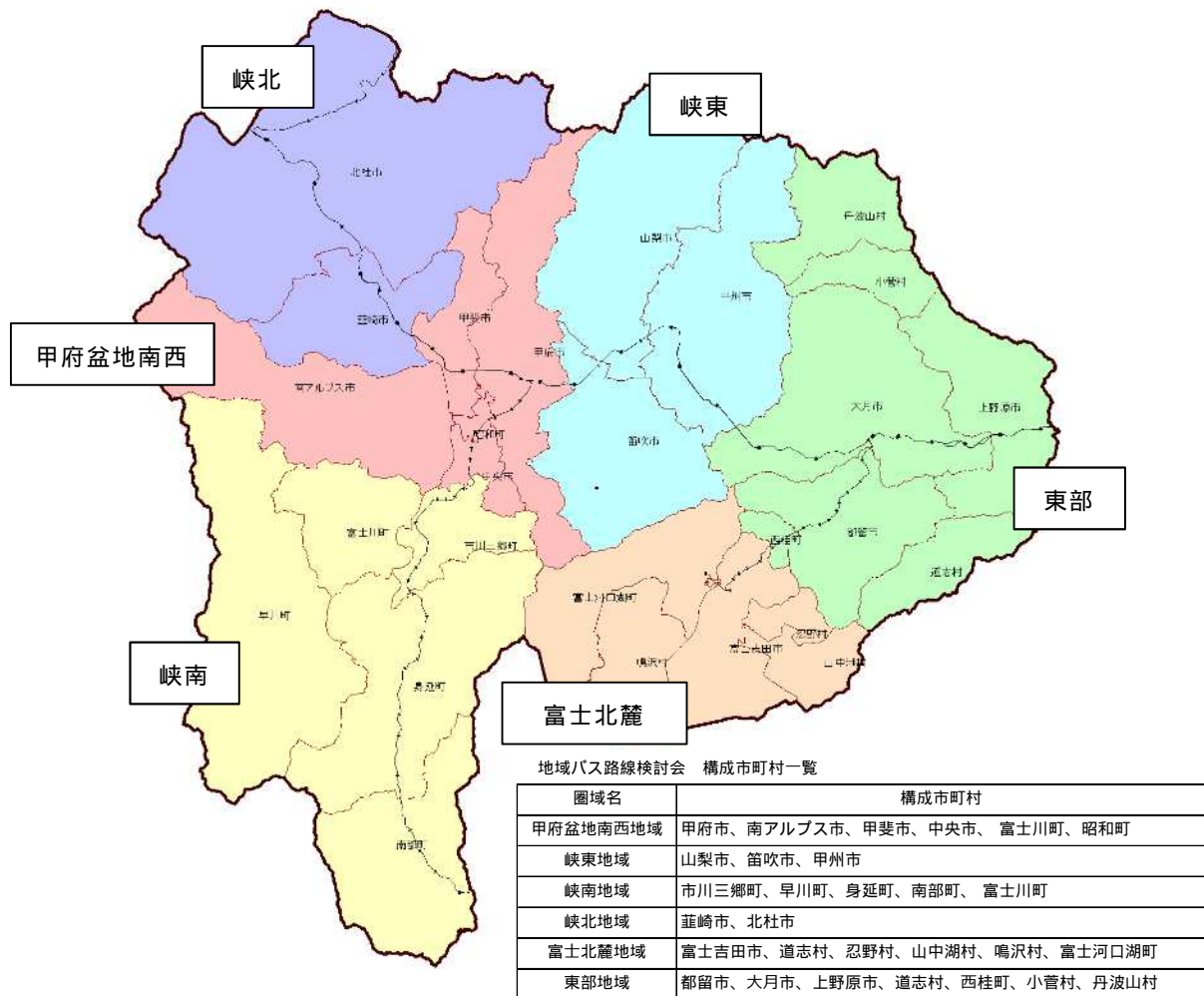


図4-4 地域バス路線検討会の設置状況

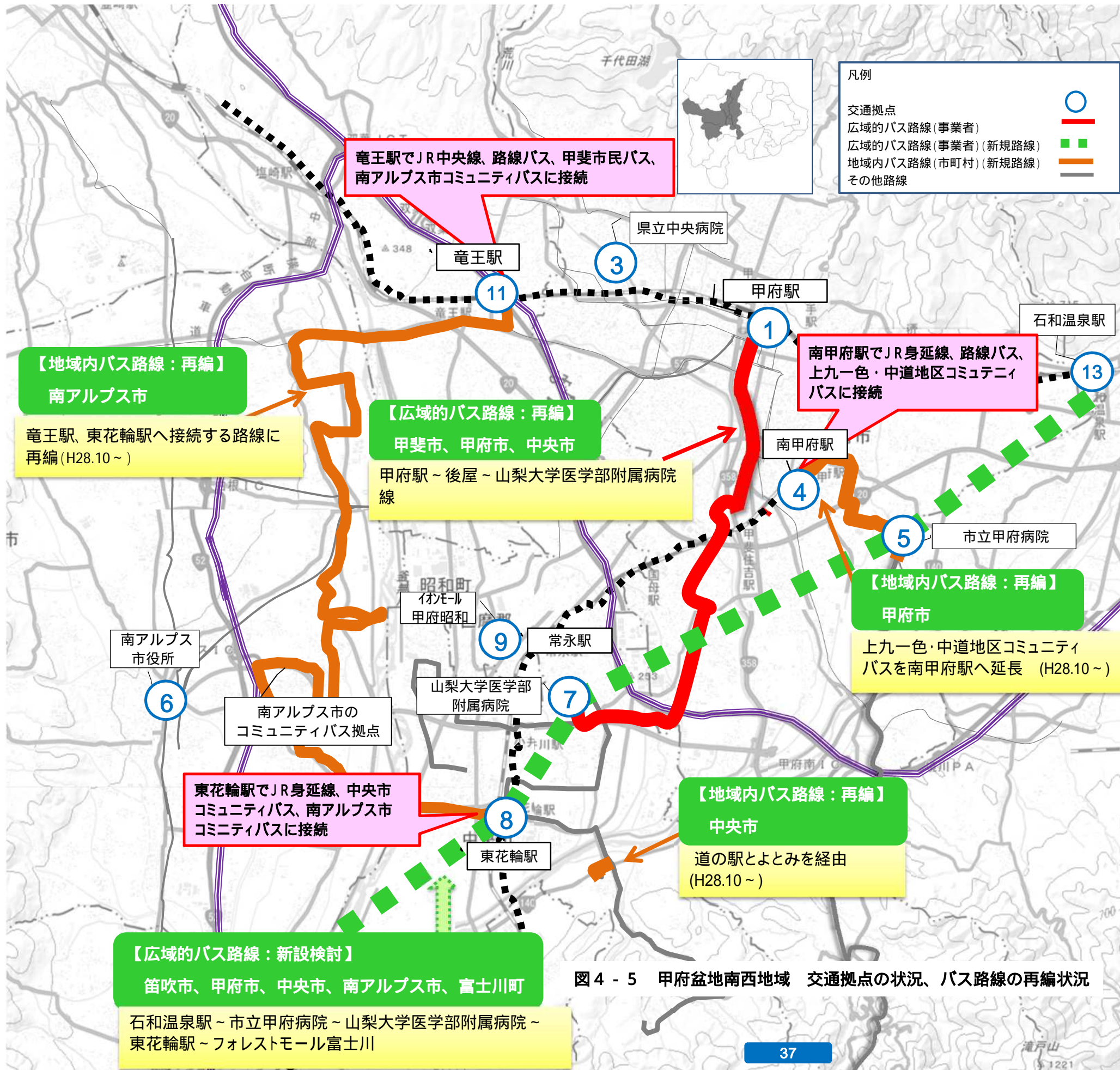


図4-5 甲府盆地南西地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況

【交通拠点の状況】

南甲府駅
南甲府駅では、JR身延線、甲府駅方面の路線バス、旧上九一色村・旧中道町、市立甲府病院方面の上九一色・中道地区コミュニティバスが接続しています。

平成28年10月から上九一色・中道地区コミュニティバスが南甲府駅に接続しました。鉄道駅との接続により、旧上九一色村・旧中道町方面から通学、通院、買い物の広域的な移動も可能となりました。

東花輪駅
東花輪駅では、JR身延線、中央市コミュニティバス、南アルプス市コミュニティバスが接続しています。

この接続により、通勤、通学、通院、買い物などを目的とした甲府市、南アルプス市、南巨摩方面への移動が可能となっています。

竜王駅
竜王駅では、JR中央線、甲府駅、葦崎駅、南アルプス市方面の路線バス、旧敷島町、昭和町、山梨大学医学部附属病院方面の甲斐市民バス、南アルプス市コミュニティバスが接続しています。

この接続により、通勤、通学、通院、買い物などを目的とした甲府市、葦崎市、南アルプス市、中央市への移動が可能となっています。

【バス路線の再編状況】

(甲府市)
旧上九一色村古関と市立甲府病院間を運行していた上九一色・中道地区コミュニティバスは、中道南小学校や笛南中学校、甲府城南病院を経由し、旧上九一色村の小学生や中学生の通学及び高齢者の通院の移動手段として使われてきました。

起終点を市立甲府病院から南甲府駅まで延伸するとともに、大型商業施設などを經由することにより、より広域的な移動が可能となるとともに、買い物などの利便性の向上などが図られました。

(南アルプス市)
鉄道のない南アルプス市では、平成26年度から平成27年度にかけて、新たなバス路線の構築について検討し、平成27年10月から市内の路線バスや高速バスと接続し、商業施設や病院を經由する芦安コース・北コース、南コースの3路線を新設しました。

コミュニティバス路線間の乗り換えが不便であったことや、バスを利用した通院や商業施設での買い物の利便性を更に向上させるため、市の中心部にコミュニティバスの拠点施設を設け乗り換えが円滑にできるよう路線変更を行うことで、利用者の増加を目指すこととしました。

平成28年10月からは、商業施設や医療機関などをきめ細かく巡る6路線に再編し、隣接する甲斐市の竜王駅や、中央市の東花輪駅へ接続する路線を新設しました。

鉄道駅との接続により、南アルプス市から通勤、通学、通院の広域的な移動も可能となりました。

市の中心部にコミュニティバスの拠点施設を設置したことにより、そこから市内各地への円滑な移動が可能になるとともに、市内の交通空白地域が解消し、病院や商業施設、公園などをきめ細かく巡るバス路線となり、鉄道駅への接続により、通勤、通学、通院の広域的な移動も可能となりました。

(中央市)
平成21年7月、東花輪駅、小井川駅、山梨大学医学部附属病院、大型商業施設、市役所庁舎などを巡るコミュニティバスの運行を開始しました。

平成28年10月には、「道の駅とよみ」を經由するルートの変更を行い、買い物の利便性の向上を図りました。

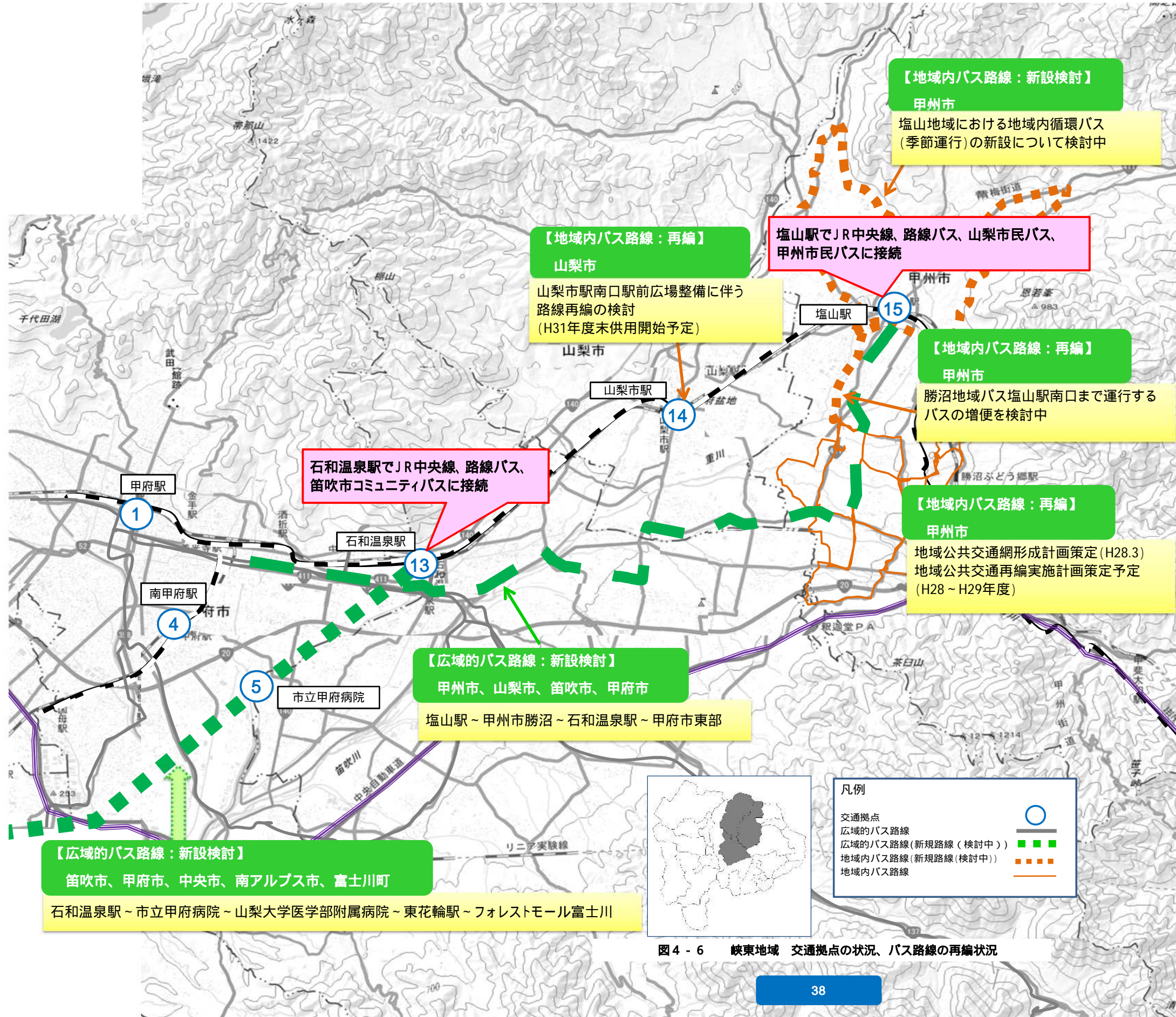


図4-6 関東地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況

【交通拠点の状況】

石和温泉駅
 石和温泉駅では、JR中央線、甲府駅、河口湖駅、富士山駅方面の路線バス、笛吹市コミュニティバスが接続しています。この接続により、通勤、通学、通院、買い物、観光などを目的とした甲府市、大月市、富士吉田市、富士河口湖町方面への移動が可能となっています。

塩山駅
 塩山駅では、JR中央線、旧三富村方面の路線バス、山梨市民バス、甲州市民バスに接続しています。この接続により、通勤、通学、通院、買い物、観光などを目的とした甲府市、大月市、旧牧丘町、旧三富村方面への移動が可能となっています。

【バス路線の再編状況】

(バス事業者)
 塩山駅～甲州市勝沼～石和温泉駅～甲府市東部を結ぶバス路線の新設を検討しています。この路線新設により、甲州市、山梨市、笛吹市の交通空白地域の一部が解消され、通勤、通学、通院などを目的とした石和温泉駅、甲府市東部方面への広域的な移動も可能となります。

(山梨市)
 平成17年3月に旧山梨市、旧牧丘町、旧三富村が合併し、旧市町で運行していた2路線に加え、新市発足に伴い市全域をつなぐバス路線を新設し、計3路線の市民バスを運行しています。

平成28年3月に策定した山梨市総合戦略では、山梨市駅の南口整備を起点に、駅前の賑わい創出・拡大を視野に入れた、駅南地域の開発に取り組むこととしております。

平成31年度末までに山梨市駅南口広場の整備を行い、併せて、市民バスの南部方面の路線を中心とした経路の見直しなどの検討を行うこととしています。

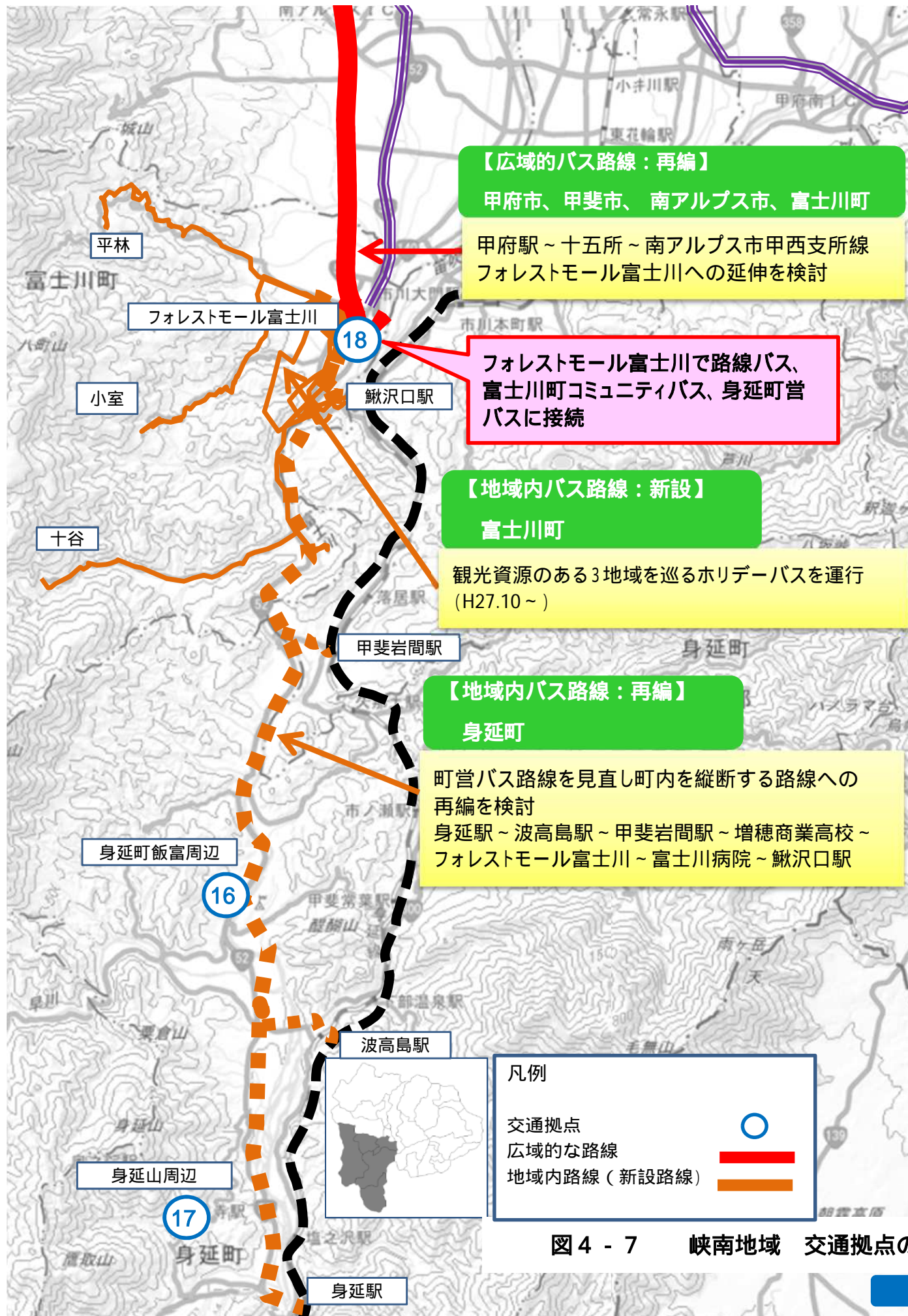
(笛吹市)
 公共施設の再編状況などを踏まえ、市民バスを、移動ニーズに対応したバス路線に再編するため、平成28年度から検討を始めました。

(甲州市)
 市内の公共交通の現状、問題点・課題を踏まえ、甲州市総合戦略などが目指す将来像を実現していくため、平成28年3月、甲州市地域公共交通網形成計画を策定しました。

甲州市地域公共交通網形成計画では、市街地エリアまでの公共交通の利便性向上、市街地エリアの公共交通の回遊性向上、観光二次交通の整備の3つを目標に掲げ、デマンドバスの運行効率化、バス運行ルートの見直し、観光周遊バスの導入などの事業の実施に向け、平成28年度から検討を進めています。

勝沼地区と塩山市民病院間を運行している勝沼地域バスは、医療機関・商業施設を経由し勝沼地域の高齢者の通院、買い物の移動手段として使われています。塩山駅南口まで運行するバスの増便を検討しています。

地区内循環バスについて、これまで勝沼地域のみで季節運行していますが、塩山地域においても春・夏・秋における季節運行を検討しています。



【広域的バス路線：再編】
甲府市、甲斐市、南アルプス市、富士川町

甲府駅～十五所～南アルプス市甲西支所線
 フォレストモール富士川への延伸を検討

フォレストモール富士川で路線バス、
 富士川町コミュニティバス、身延町営
 バスに接続

【地域内バス路線：新設】
富士川町

観光資源のある3地域を巡るホリデーバスを運行
 (H27.10～)

【地域内バス路線：再編】
身延町

町営バス路線を見直し町内を縦断する路線への
 再編を検討
 身延駅～波高島駅～甲斐岩間駅～増穂商業高校～
 フォレストモール富士川～富士川病院～鰍沢口駅

凡例

交通拠点

広域的な路線

地域内路線（新設路線）

図4-7 峡南地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況

【交通拠点の状況】

フォレストモール富士川
 フォレストモール富士川では、南アルプス市、甲府駅方面の路線バス、富士川町コミュニティバスが接続し、鰍沢口駅、甲斐岩間駅、波高島駅、身延駅方面の身延町営バスの接続を検討しています。
 この接続により、通勤、通学、通院、買い物、観光などを目的とした甲府市、南アルプス市、身延町方面への移動が可能となります。

【バス路線の再編状況】

(バス事業者)
 甲府駅～十五所～南アルプス市甲西支所線について、フォレストモール富士川への延伸を検討しています。

(身延町)
 平成16年9月、旧下部町・中富町・身延町の3町が合併し、現身延町となりましたが、旧3町の公共交通サービスがそのまま継続されている状態が続いていました。その後、町営バス、乗合タクシー、民間バスとの連携を図り、住民の移動手段の確保を図ってきました。

平成27年12月に策定した、身延町まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標に、特色ある持続可能な地域社会の形成を掲げ、公共交通機関の充実を図ることとしました。

町民や利用者アンケート調査によりニーズを把握し、学校、病院、福祉施設、役場などの施設への乗り入れの検討やJR身延線、路線バスとのスムーズで円滑な乗り換えができるよう検討を進めました。

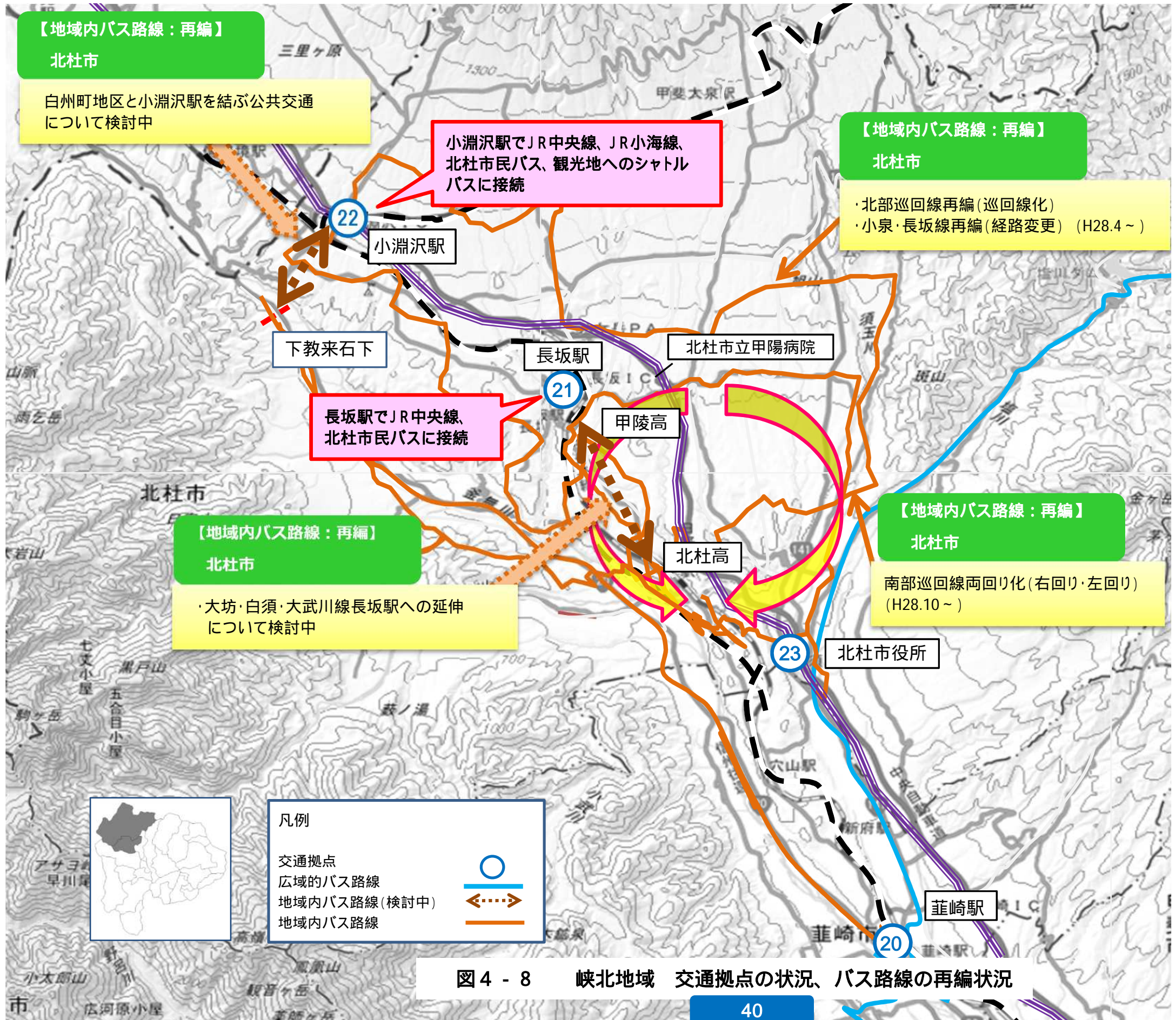
広域的バス路線との乗り継ぎや隣接する町に所在する高校、病院等への乗り入れも検討し、町の北部を運行する新早川橋鰍沢線と町の南部を運行する身延循環線の一部を統合し、身延駅から富士川町の増穂商業高校やフォレストモール富士川、富士川病院を經由して鰍沢口駅までの町内を縦断するバス路線への再編を検討しています。

この路線の再編により、通学、通院、買い物の利便性が向上し、広域的な移動が可能となります。

(富士川町)

町の公共交通機関は、中山間地域から市街地に向かう乗合タクシーと市街地を走る路線バス、市川大門駅と富士川町の市街地を經由し、鰍沢口駅を結ぶコミュニティバスが運行されています。

富士川町コミュニティバスは、通勤、通学などに利用されています。平成27年10月からは、観光資源のある小室、平林、十谷と鰍沢口駅を結ぶホリデーバスを、それぞれ、1日3往復運行しています。



【交通拠点の状況】

①長坂駅
長坂駅では、JR中央線、北杜市民バスが接続しています。この接続により、通学、通院、買い物などを目的とした甲府市、旧小淵沢、旧大泉村、旧須玉町、長野県方面への移動が可能となっています。

②小淵沢駅
小淵沢駅では、JR中央線、JR小海線、北杜市民バス、小淵沢駅周辺、旧白州町、旧大泉村、長野県方面などの観光地へのシャトルバスに接続しています。この接続により、通学、通院、買い物、観光などを目的とした甲府市、旧白州町、旧大泉村、旧長坂町、長野県方面への移動が可能となっています。

【バス路線の再編状況】

(北杜市)
北杜市は、8町村が合併した本県で最も広い市であり、公共交通は、JR中央線とバス事業者による路線バス、市で運行している北杜市民バスが運行されています。

平成28年4月から北杜市民バスの小淵沢・長坂線、小泉・長坂線が再編され、商業施設や公民館を経由する路線となりました。この路線再編により、通学、通院、買い物の利便性が向上するとともに、観光客の二次交通としての利便性が高まり、利用者の増加につながっています。

さらに、平成28年10月からは、市民が短時間で目的地まで移動できるよう、従来は右回りのみであった南部巡回線に左回りを加え、双方の巡回線としました。

この路線再編により、移動の目的地までの移動時間の短縮が可能となり、通学、通院、買い物の利便性が向上しました。

市民バスの大坊・白須・大武川線については、沿線住民から長坂駅までの延伸について要望が出ており、長坂駅までの延伸を検討しています。

また、葦崎市と共同運行している、葦崎～穴山橋～牧ノ原～下教来石線については、沿線地域から、小淵沢駅までの延伸について要望が出ており、白州町地区と小淵沢駅を結ぶ公共交通について検討を進めています。

図4-8 峡北地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況

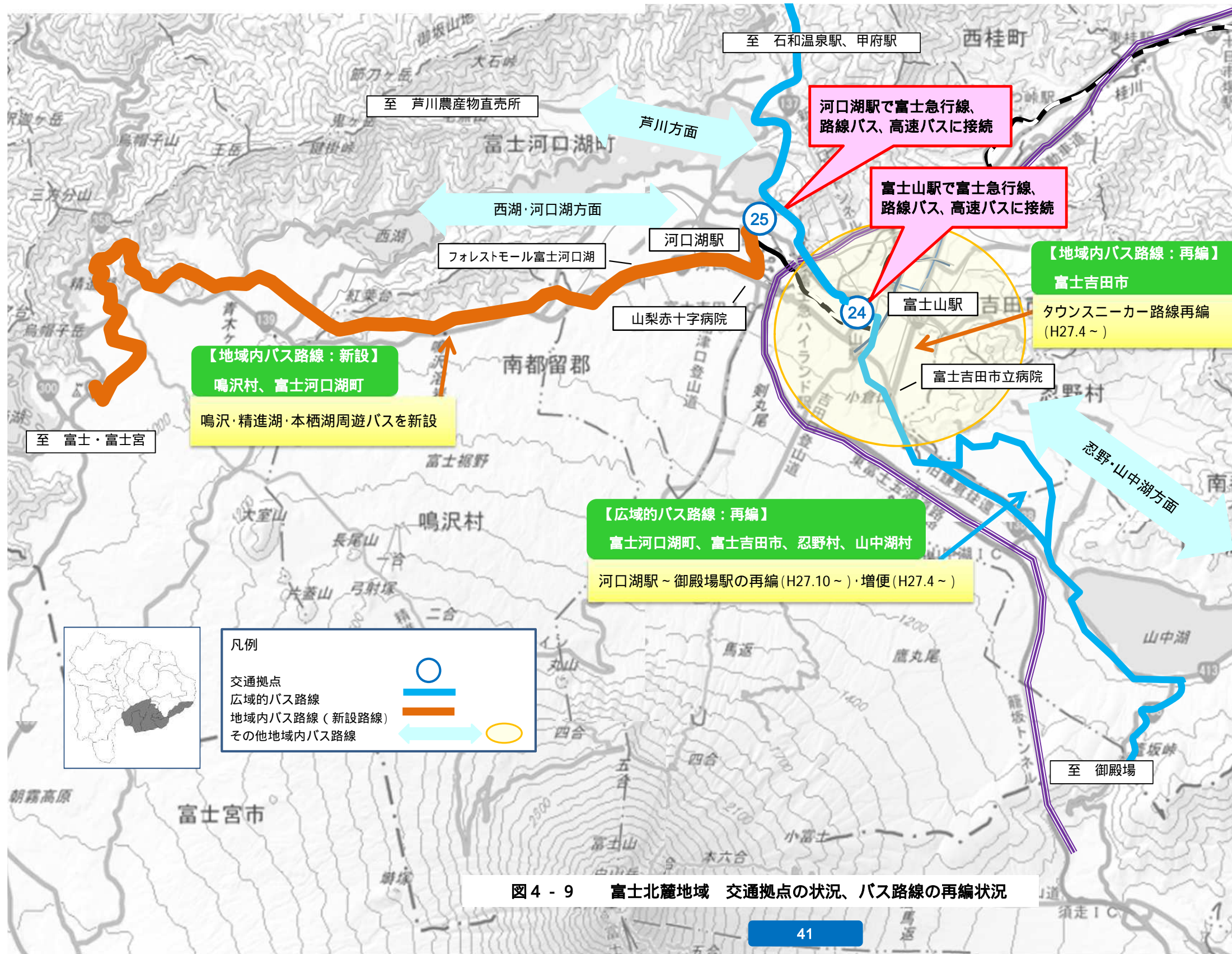


図4-9 富士北麓地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況

【交通拠点の状況】

②④富士山駅

富士山駅では、富士急行線、甲府駅、河口湖駅、忍野村、山中湖村方面の路線バス、高速バスが接続しています。

この接続により、通勤、通学、通院、買い物、観光などを目的とした甲府市、富士河口湖町、忍野村、山中湖村方面、東京都・神奈川県方面などへの移動が可能となっています。

②⑤河口湖駅

河口湖駅では、富士急行線、甲府駅、富士山駅、旧芦川村、西湖・精進湖・本栖湖方面の路線バス、高速バスに接続しています。

この接続により、通勤、通学、通院、買い物、観光などを目的とした甲府市、富士吉田市、笛吹市、西湖・精進湖・本栖湖、東京都・神奈川県、静岡県方面などへの移動が可能となっています。

【バス路線の再編状況】

(バス事業者)

平成27年4月には、河口湖～御殿場線が増便され、平成27年10月には、忍野村内野を経由する路線が加わりました。

この路線再編により、富士河口湖町・富士吉田市、御殿場市方面の通勤、通学、通院、買い物、観光客の移動の利便性が向上しました。

(富士吉田市)

市内を循環するコミュニティバスであるタウンズニーカーは、市民の通勤、通学、買い物や高齢者の移動手段として3路線で運行されていましたが、平成27年4月に、富士吉田市で整備した温泉などを併設した「富楽時(ふらっと)」開設に併せて、路線を再編しました。

(鳴沢村・富士河口湖町)

平成28年4月、富士北麓地域を訪れる観光客の二次交通の充実、地域住民の買い物や通院の利便性の向上を図るため、河口湖周遊バス、西湖周遊バスに続き、鳴沢・精進湖・本栖湖周遊バスの運行を開始しました。

この路線は、河口湖駅から国道139号線沿いの、富士山世界遺産センター、道の駅なるさわ、富岳風穴、精進湖、本栖湖などへの観光客が利用するとともに、大型商業施設や高校、病院も経由するため、地域住民の買い物、通学、通院を目的とした移動にも利用される生活路線としても利用されています。

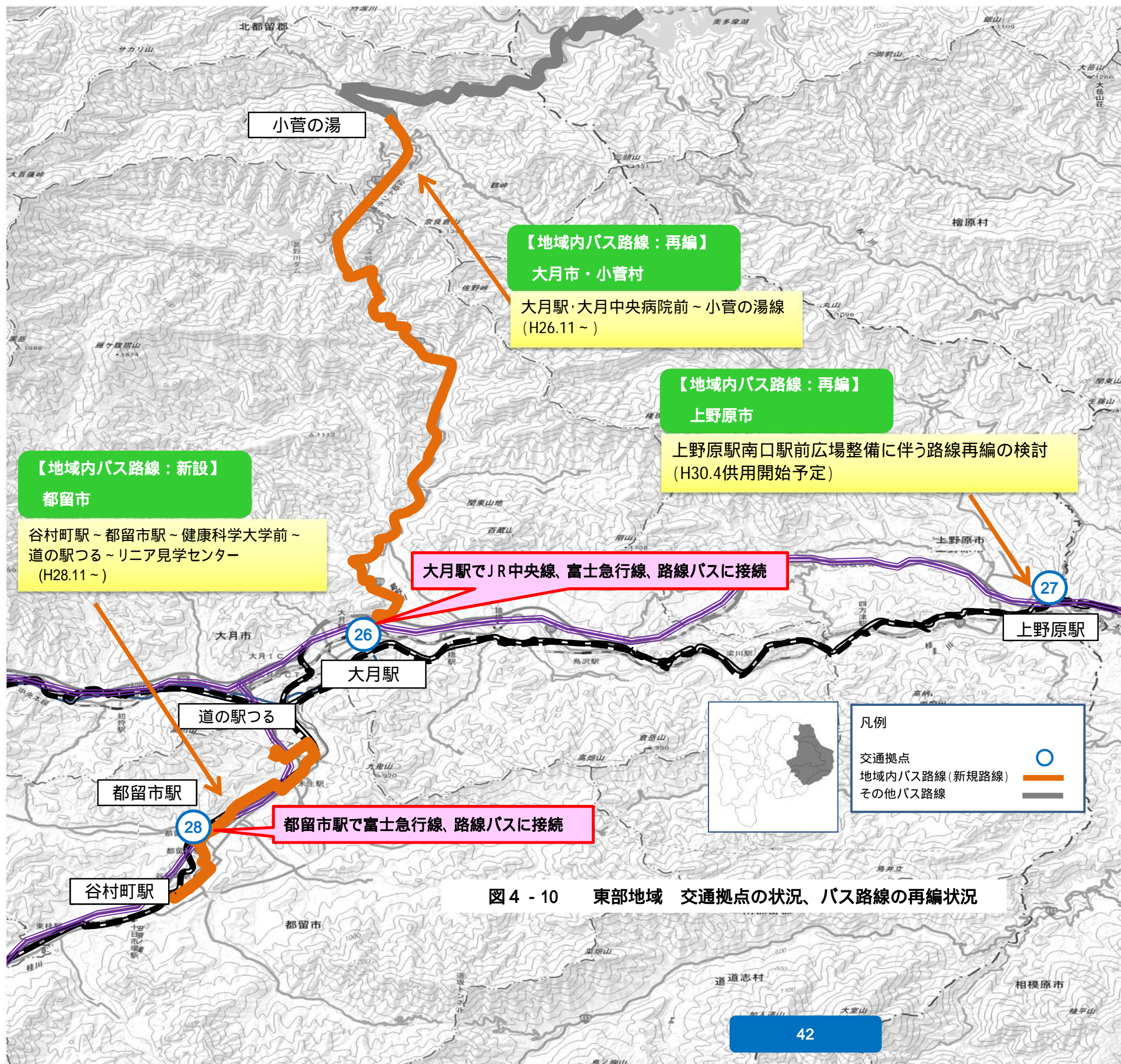


図4-10 東部地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況

【交通拠点の状況】

②6大月駅

大月駅では、JR中央線、富士急行線、大月市内、小菅村方面の路線バスが接続しています。この接続により、通学、通院、買い物などを目的とした甲府市、上野原市、小菅村、東京都方面への移動が可能となっています。

②8都留市駅

都留市駅では、富士急行線、都留市内を運行する路線バスが接続しています。

【バス路線の再編状況】

(バス事業者)

平成26年11月に大月駅・大月中央病院前～小菅の湯線が再編され、大月駅に接続しました。この路線の再編により、小菅村、大月市方面の通学、通院、買い物の広域的な移動が可能となり、観光客の移動手段の利便性も向上しました。

(都留市)

都留市内には、循環バスと都留月夜線、宝鉦山線、菅野道志線、都留市駅と大月駅を結ぶ路線、大月駅とリニア見学センターを結ぶ5路線、予約型乗合タクシー2系統が運行していますが、平成28年11月の「道の駅つる」のオープンに合わせ、谷村町駅から交通拠点の都留市駅、都留市立病院を経由し、健康科学大学、道の駅つる、リニア見学センター間を1日、4往復するバス路線を新設しました。

この路線は、通院、通学、また、道の駅やリニア見学センターへの観光客の移動手段として利用されています。

(大月市)

平成26年11月の松姫トンネルが開通に併せて、大月市立中央病院から大月駅を経由し、小菅の湯を約1時間で毎日3往復する路線バスの運行を始めました。

この路線は、小菅村から大月市立中央病院への通院、大月市方面への通学、買い物など地域住民の日常生活の移動手段として、また、多摩川の源流に位置し、自然の魅力あふれる小菅村への観光路線として、地域の活性化に寄与しています。

大月市内には、現在、大月駅・大月中央病院前～小菅の湯線を含め10路線が運行しています。

(上野原市)

平成28年3月に策定した上野原市総合戦略では、上野原駅の南口駅前広場の整備に伴い、駅前の賑わい創出・拡大を視野に入れた、駅南地域の開発に取り組むこととしており、平成29年度末までに上野原駅南口広場の整備を行い、併せて、市各方面から上野原駅南口に乗り入れる路線バスの経路の見直しなどの検討を行うこととしています。